

日 時：2018年3月4日

説教題：「霊による一致を目指す教会」

聖 書：エフェソ書4章

序.

大垣伝道所としての43年の間、岐阜加納教会の皆さまからの多大な支えと祈りが与えられてきましたことを、改めて感謝いたします。

ここに至る経過はさておき、今日から、大垣伝道所の会員が合流し、一つの教会としての歩みを始めます。元より改革派教会として、そして岐阜加納教会の所属伝道所でありましたが、2つの教会がそれぞれ異なる場所で礼拝を行い、伝道を行ってきました。改革派教会を作り上げるということでは一致していますが、集会や交わりの持ち方が違うばかりか、雰囲気、文化も異なります。もちろん、加納教会が主体となり、大垣伝道所の会員がそこに加わっていくのですが、しかし、両者が寄り添い、互いを理解する、そして受け入れ合っていかなければ、教会が一つになることはありません。

まずは、一つになる努力をしなければならないところで一致しなければなりません。

I. 神の国への道を歩むキリスト者

①主の囚人:奴隷

エフェソ4章全体をお読みいただきましたが、1～6節を中心に聞こうと思います。

さてパウロは、**主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたに勧めます**と語ります。ここでの囚人とは、パウロは文字通り捕らえられ、投獄されているわけですが、それは同時に神の僕、神の奴隷であることを語っているといつて良いかと思います。主は、天地万物を創造し、私たち人間に命をお与え下さいました。神のかたち、神に似せて、生命の息吹が吹き入れられたのです。私たちは、神の恵み抜きに、今も生きることはできません。

そして罪の故に死に行く私たちでしたが、神のご計画の中に入れられ、神によって呼び集められました。私たちの石の心は、聖霊の働きにより砕かれ、主の御言葉により、罪の悔い改めと信仰の告白へと導かれたのです。主従関係を間違えては、なりません。神の奴隷として、神の御言葉に聞くことから始めなければなりません。

②十戒を通して愛に生きるキリスト者

そして主は、その**招きにふさわしく歩む**ように求めます。主の招きに与る時、私たちは、すでにキリストの十字架の贖いが成し遂げられ、義とされ、子とされています。しかし罪赦された罪人であって、罪がなくなったわけではなく、自己中心に生きるのです。神の民に相応しくありません。

そのため、救われ、神の国の住民とされた時、私たちは、神の民に相応しい者として、神の義・神の聖を着飾って生きることを求められるのです。それが善き業であり、十戒をベースに生きるのです。しかし「十戒を守らなければならない」では息苦しいです。十戒を守ることにより、私たちは悪魔の誘惑、罪から守られ、逸れることなく、神の国に向けての道を歩み続けることが出来るのです。

そして十戒に従って生きる時、キリストは大切なことを私たちに教えて下さいました。十戒の要約と言われているものであり、マタイ22:37～40で語られています。

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。「隣人を自分のように愛しなさい」。律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。

十戒のベースに愛があります。神さまに愛されている者が、神の愛に生きる時、私たち自身が**神を愛し、隣人を愛するのです。** 15節 **愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していくのです。** 23節 **心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しい生活を送るようにしなければなりません。**

II. 一つとなるために

①柔和で、寛容の心

そして、パウロも私たちに語ります。2 **一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。**

敵対心、対抗心を持つ時、高ぶり、興奮するのです。私自身、非常に弱い存在であり、今もなお興奮を抑えることが出来ません。

主は、柔和で、寛容の心を持つように求めます。相手は無条件に受け入れることが求められます。他者を受け入れようとする時、その人を知らなければ受け入れることは出来ません。何を求めているのか、何に苦しんでいるのか、何に嘆いているのか…。**嘆きの原因が分かると、初めて一緒に解決方法を探ることも出来るのです。**キリストが行われたことは、貧しい者への施しであり、病気の者に対する癒やしです。罪を犯した姦淫の女に対しては、罪を赦して下さいました。柔和と寛容をもって、相手を受け入れようとする時、相手を理解し、寄り添わなければ出来ません。

「これが出来れば許してやろう」との上から目線では、柔和さも寛容さもありません。「このように決まっているから、従って貰わなければ困る」、このように最初に語られると、心と閉ざすのです。愛の交わりを行うことなど出来ません。

②互いに忍耐せよ！

そして、主は隣人を愛する時、**互いに忍耐する**ように求めます。互いに理解し合う時、違いが明るみになるのです。26節で語るように、**怒る**ことがあっても良いのです。それが溝を埋める作業です。だからこそ時間をかけて、話し合うことが求められます。**なぜ怒るのか、その原因を知らなければその痛みを取り除くことは出来ません。**

しかし、**怒ったままではいけない**のであり、相手を許す心が必要です。互いに一つの体の一部なのです。そのために話し合いが求められます。そして相手の痛みを理解しようとするならば、自分の意見を押しつけるのではなく、互いが納得することが出来る解決方法を模索するのです。16節でパウロは語ります。**キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。**

またパウロはコリント一12章において、一つの体、多くの部分(12:12-31)で語っています。20~22 **だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。目が手に向かって「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません。それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。**

足が痛ければ走るなどできません。同様に、教会において一人が痛みを伴っていれば、一つになることなど出来ないのです。

つまり、教会が一つの大きな決断をする時、会員の意見、会員の心の痛みを十分に聞き取り、解決方法を模索した上で、会員が納得した形で決議していくことが求められます。そのために時間が必要なのです。**忍耐強く話し合う必要なのです。神が求める教会の姿が、ここにあります。**そのために**長老**が立てられているのです。長老の働きは、非常に重大です。忍耐に忍耐をもって話し合い、最後に決断することが求められているのです。こうした働きを長老が行ってきただけか私は問うているのです。

一昨年(2016年)の7月から、小会が行っていることは、先に決断有りなのです。それを会員に語っても、納得出来ないのです。一つの思いになることが出来ないのです。

③神の求める和解と平和

キリストが十字架の死と復活によって、私たちにお与え下さったのは、分断ではなく一致です。バベルの塔によって分かれた国、民族、言葉、差別、身分、偏見……、あらゆる分裂をすべてを取り除き、神の国において、**あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれに数えきれないほどの大群衆**が、一つとなって主を讚美し、救いの喜びに生きることで(参照：黙示録7:9)。これが主が私たちに求めておられる**平和**です。理解し合い、和解しなければ、平和を実現することはできません。そしてこの険しい道のりを乗り越える時、初めて一つの体・一つの教会となるのです。

Ⅲ. 一つの教会となるために

①まずは互いに理解を…

聖書は語ります。4 **体は一つ、霊は一つです。**キリストを長子とする一つの体が、教会です。岐阜加納教会です。今まで二つの教会で歩んできた人たちが、今一つとなるうとしているのです。互いが互いを理解し、忍耐し、理解し合って、一つとなる努力が求められます。一方だけに強いるのは、強要であって、ここに愛はありません。

今まで、この努力が行われてこなかったことを、まず認めることから始めなければなりません。今回の合流にあたって、心を痛めている会員が、大垣ばかりか加納教会にも少なからずおられます。そうした方々一人ひとりの思いを、共有していかなければなりません。理解して行かなければなりません。

②一つの希望に生きるキリスト者

今、大垣伝道所と岐阜加納教会が、一つの場所で礼拝を献げることが許されているのは、この4節の後半の御言葉、**あなたがたが、一つの希望にあずかるように招かれて**いることを、それぞれが信じているからです。欠けがある教会であったとしても、ここにこそ生きる希望がある、これ以外にないことを知っているからです。

地上に立てられた教会にも弱さがあり、時に過ちも犯す。しかしそれでもなお、主なる神さまが教会をとおして、私たちを養い、私たちに救いの希望を与え続けて下さることを信じているからです。

IV. 一つの教会を目指すために

①教会:安らぎと平安の場所

互いに理解し合い、互いに忍耐して寄り添い、互いに一つとなる努力をもって教会を作っていかなければ、どこに教会の魅力があるのでしょうか。教会とは、罪の赦しを与えられ、一つの希望に生きるところです。日々の生活の中であって、張り詰め、緊張し、高ぶっている中であって、神の御前、兄弟姉妹との交わりをとおして、ホッととする、心を休める場所でなくてどうして、人が集うのでしょうか。どうして、初めて教会に来た人が魅力的に思えるのでしょうか。教会に集う一人ひとりが皆、救いの喜びに満ち、教会に来ることにより安らぎと平安を得られる場所でなくて、どうして、家族や知人を誘うことが出来るのでしょうか？

②メッキは剥がれる

加納教会が、一つのキリストの体として、一つの希望によって一致して歩まなければ、新たな西濃伝道以前に、岐阜加納教会の存立が問われることとなります。中部中会にとっても、日本キリスト改革派教会にとっても、そして地上にあるキリストの教会としても、岐阜加納教会は大切な教会なのです。

「加納教会は一つになっている。ほころびなどない」と言われるかも知れません。しかし、メッキは剥がれます。そして人々からはその事実を見破られてしまいます。

③今、新生岐阜加納教会に求められていること

岐阜加納教会は、今日から新たな歩みが始まります。近い将来、牧師も交代します。大垣から合流した人はもちろんですが、岐阜加納教会の皆さまもまた、新しい教会を作り出す思いで、一つとなる努力が求められているのではないのでしょうか。

こうして初めて、一つのキリストの体が形成され、福音は地域の人々に響き渡るのです。不協和音があってはなりません。ここまで不協和音があったことを認めることから始めなければならないのです。心の奥底、魂の響く所で、福音における一致することが求められています。

魂と魂をぶつけて語り合うこと、理解し合う努力が求められています。その時に、福音という一つのメロディを奏でることが出来るようになるのです。

加納教会の試みは、改革派教会としてのモデルケースとなります。中部中会、そして改革派教会としての大きな使命を持っていることを認識して頂きたいです。

今日はゴールではなく、新生岐阜加納教会のスタートにすぎません。牧師・長老・執事・そして一人ひとりの信徒が、寄り添い、互いに理解し合う、意見をぶつけ合い、それでもなお、互いに赦し合うことの出来る一つのキリスト教会を立て上げていただきたい。

(お祈り)